

令和4年8月19日

令和4年度

第1回 南相馬市総合教育会議

南 相 馬 市

第1回 南相馬市総合教育会議 会議録

- 1 開催日 令和4年8月19日（金）
- 2 場 所 市役所 東庁舎2階 第1会議室
- 3 会議時間 開会 午後 3時30分
閉会 午後 5時00分
- 4 出席者
市 長 門馬 和夫
教育長 大和田 博行
教育長職務代理者 渡辺 金作
委 員 濱須 弘仲
委 員 金子 まゆみ
- 5 欠席者（1名）
委 員 高野 恵以子
- 6 説明のため出席した者の職氏名
(復興企画部)
復興企画部長 星 高光 企画課長 猪狩 忠信
企画係長 内城 弘志 企画係副主査 山下 綾菜
(教育委員会事務局)
教育委員会事務局長 鎌田 由光 次長兼教育総務課長 大石 雄彦
参事兼学校教育課長 矢内 信男 教育企画担当課長 熊坂 真利
参事兼指導主事 村上 潤一
- 7 傍聴者（2名）
- 8 本日の会議に付した報告事項等
(1) これまでの総合教育会議の開催状況等について
(2) その他

9 本日の会議に付した協議事項等

- (1) 学力向上について
- (2) 特色ある市の独自教育について
- (3) ふるさと教育について
- (4) 学校適正化について
- (5) その他

【配布資料】 別添のとおり

会議次第・名簿

報告事項 これまでの総合教育会議の開催状況等について

参考資料1 学力向上について

参考資料2 特色ある市の独自教育について

参考資料3 ふるさと教育について

参考資料4 学校適正化について

参考資料5 南相馬市総合教育会議設置要綱

午後3時30分 開会

■企画課長

只今より、令和4年度第1回南相馬市総合教育会議を開催いたします。
本日進行を務めさせていただきます、企画課長の猪狩でございます。よろしく
お願いいたします。
はじめに、市長よりご挨拶申し上げます。

■市長

総合教育会議ですが、教育を行うための諸条件の整備、その他の地域の実情
に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため、重点的に講ずべき施策につい
て市長及び教育委員会の構成によって協議される旨が、要綱に定められていま
す。そういった、環境整備などが自治体に求められるものと思っています。そ
の中で私も市長当選後、子どもたちの海外研修、市独自の教員採用、学校適正
化などの協議を行い、実現してきたことがあります。

前回開催から時間が空きましたので、経過報告を受けた後に市の独自教育な
どの意見交換をしながら、新しいことに対応できればいいと思っております。
限られた時間ではありますが、委員の皆さまのご意見を頂戴しながら、どうや
って環境整備を図っていけるかを協議できればありがたいと思っております。
よろしく申し上げます。

■企画課長

「3 出席者の紹介」に入ります。本日は高野委員が欠席となっております。
また、教育長はオンラインでの参加となります。

なお、構成委員は次第の裏面に記載のとおりとなります。こちらをもって紹
介に代えさせていただきますので、ご了承願います。

次に、次第「4 報告事項」に入ります。南相馬市総合教育会議設
置要綱第4条第1項の規定により、これより市長が議長となり進行することと
なりますので、よろしくお願いいたします。

■市長

それでは、進行役を務めさせていただきますので、ご協力よろしくお願いい
たします。

報告事項「(1) これまでの総合教育会議の開催状況等について」、事務局よ
り説明をお願いします。

(企画課長 説明)

■市長

では会を進行したいと思います。疑問点等がありましたら会の中でも協議の時間を確保しておりますので、その際に触れていただければと思います。

続いて、報告事項「(2) その他」に移ります。事務局から何かございますか。

■事務局

ありません。

■市長

委員の皆さまからはありますでしょうか。無ければ報告事項「(1) これまでの総合教育会議の開催状況等について」を踏まえ、「5 協議事項」に移りたいと思います。「(1) 学力向上について」事務局から説明をお願いいたします。

■事務局

先ほど説明したとおりになります。また、参考資料1の「令和4年度全国学力・学習状況調査 南相馬市の結果について」においても記載がありますので、こちらの資料も基に意見を交換していただければと思います。

■市長

では参考資料1の内容について簡単で構いませんので説明をお願いします。

(学校教育課長説明)

■市長

皆様から何かご意見はありますでしょうか。無ければ私から質問させていただきます。

教育環境改善に向けて色々取り組みをしております。独自に海外研修や奨学金制度などもその1つです。学力向上も目標の1つであり、その成果を見るための指標の1つが全国学力量習状況調査の結果だと思います。小学生は全国平均を上回り、中学生は全国平均を下回っている現状が、南相馬市の特徴だとも見られると思いますがいかがでしょうか。

■学校教育課長

過去の結果を見れば、特に中学生の数学に関しては全国平均を下回ってい

る状況にあります。福島県全体を見ても、数学の数値は低く、福島県も県全体の成績向上のため取り組んでいます。結果に結びつかないのが現状です。本市においても、平成27年度から授業改善プランとして、秋田県の指導方針を参考にし、小学校から中学校まで同一の授業スタイルで積み上げていくスタイルでの授業へと改善を進めております。中学校のグラフを平成27年度から見ていきますと、成果は出ていましたが、新型コロナウイルスの影響もあり現在伸び悩んでいるところです。

そういった中で、話し合いをベースとした「緩急型の授業」と言いますが、知識を教え込む、技術を習得させるなどの授業スタイルよりは、子どもたちの思考力や判断力、表現力などを高めていく授業スタイル、「思考発信型の授業」を進めている矢先に新型コロナウイルスの影響があり、授業時間を短縮して行ってきた経緯もあり、また、子ども同士が近づいて話し合うことが出来ない環境でもあることから、うまく授業を進められない現状について、現場から声は上がっております。教育委員会の皆様にも授業をご覧いただいておりますので、小中学校の違いなどの感想もいただきながら、ご意見を頂戴できればと思っています。

■ 渡辺委員

学校教育課長より、新型コロナウイルスに関する話も含めた説明をいただきましたが、東日本大震災が子どもたちを不安定にさせた根本的な原因ではないのでしょうか。ちなみに、秋田は東日本大震災の影響を強く受けていたのでしょうか。

■ 学校教育課長

災害被害という意味では、大きな影響は受けていないと思います。

■ 渡辺委員

子どもたちが落ち着いて勉強できる環境づくりが必要になってくるのではないのでしょうか。落ち着いて学習できないという不安定な状況に直面したことが、尾を引いてきているのではないのでしょうか。新型コロナウイルスについては全国的な問題と考えます。南相馬市の学力が全国に劣るとは思っていません。東日本大震災の影響を強く受けた環境が、大きな一因であると考えます。長い目を見て、子どもたちの環境を整え、励ましていくことも方法の1つではないかと思っています。

■濱須委員

全国学力調査の件ですが、私には専門的知見はありません。渡辺委員から平成23年の出来事がターニングポイントとなった旨のお話がありました。あれから11年が経過し、グラフでは成果が出ているのか、現状維持なのかはつきり分かりません。まだ成果が十分に出ていないという印象を持っています。

先生方は秋田県に研修に行かれていたとのことですが、秋田県は30から40年前は学力が高い県ではありませんでした。福島県全体として、数学は長年課題となっています。予算もつけて取組んでおられますが、十分に履行できていないことも考えられます。教育は点数を上げるだけではないと思います。全国の平均より劣っているという部分だけで、限定的な取り組みをするのではなく、もっと広い視野で取り組んでいく必要があると感じました。

■金子委員

中学生と高校生の子供がいます。子どもたちが幼稚園に通っていた時、1つの課題をみんなでクリアしていくという考えを先生が教えてくれました。その教えの意味は、中学生にもなればしっかり理解します。

東日本大震災以降、タブレットや電子黒板に始まり、様々な設備が導入され、教育環境が整ってきました。これらを活用した授業を進めていく前に、根本的な話になりますが、南相馬市の教育の課題と方針を、児童生徒にもしっかり伝え、児童生徒自身が課題等を把握し、取り組んでいく姿勢が大切だと思います。

■教育長

秋田県の授業を見る機会がありました。見て感じたことは小中学校を通じて、教員の「こういう授業をやりましょう」のベクトルが同じだったことです。教員の経験差はあっても、「子どもたち一人一人が自由に自分の意見を述べ合い、みんなで共有し合ってより良いものを作っていこう」という意識の共有がされています。ここが南相馬市に今足りない部分だと思っています。先ほど学校教育課長から南相馬市の目指す授業スタイルの話がありました。小学校は担任制のため取り組みやすいですが、中学校になると教科担任制になること、また、中学3年生になれば高校受験に備えて点数を取ることを優先する先生もいると思います。

■市長

学力向上は子どもたちにとってマイナスにはならないと思います。学力向上は本人の可能性を広げます。広がる視野もあると思います。震災の影響や新型コロナウイルスなどの話もありました。今後社会情勢を踏まえた対策など

も意見共有していけたらと思います。

「(2) 特色ある市の独自教育について」に入ります。資料に関する説明をお願いします。

(教育企画担当課長説明)

■市長

特徴の大きな1つは、フォニックス学習やロボットテストフィールドも関連したプログラミング学習などを発展させていくために、小高での認定こども園、小学校を中心に実証を始めたということです。また、英検に関する支援もありますが、この辺りについてご意見ございますか。

■濱須委員

外国語教育に関連する内容になります。最終的には海外派遣事業まで行うなど、将来に渡って良い企画提案がされていると思っています。一方で、個人的に感じていることになりますが、中学生のブリッティッシュヒルズでの研修や海外派遣などの応募状況を見ると、期待値まで届いていないと思っています。新型コロナウイルスの影響で応募できない状況もあると思いますが、海外派遣を通して、国際交流を広げていくという考え方であれば、南相馬市にしながら国際交流が出来て、子どもたちが様々なことを感じ、それが契機となって外国語を学ぶようになるとも考えられます。出勤退勤時間に、外国人が歩いている姿も見ますので、日常生活の中であいさつをすることから広がる可能性もあると思っています。

■金子委員

とても良い制度を提供していただいていますので、濱須委員の仰るとおり、多くの子どもたちにも興味を持ってほしいと思います。

■教育長

外国語を学んでも利用する場がなければ、学ぶ意欲を持たないと思います。どうやってその場をつくれればいいのか。自分が外国人に伝えたい地元の良いところ、それに気づいてもらうことで、外国人に伝えたいという気持ちが芽生え、自発的な外国語の学習につながると思います。話し方など、英語を使うためのノウハウを教える取組はされているので、英語を利用する場をつくる取組も進めていければ良いと思います。

■ 渡辺委員

子どもたちには刺激を与えることが大切だと思います。昔から南相馬市の子どもはのんびりしており、中通りの高校と比べれば、入試の倍率からも競争意識は薄れ、学習意欲も高まらないという状況が生まれていると思います。先日、大甕小学校の授業を見ましたが、先生と児童が一体となっていて行っている授業に感銘を受けました。このような授業が全体に波及すればいいと感じています。また授業中、生徒に話しかけるALTの先生は少ないと感じていますので、ALTの先生を上手に活用しながら、子どもたちにとって楽しい英会話が出来ればよいなと思っています。私は英検4級を所持していますが、これは一般的に見てどうなのでしょう。娘が3級を持っていたため、話を聞きましたが資格として使えるものではない感覚を持っているようでした。私の時と娘の時と、その時に目標となる資格の基準は違うのだと感じます。話を戻しますが、子どもたちには刺激を与えることが必要だと感じています。

■ 市長

個別的な方法などは別として、皆様からは、生徒に刺激を与えることは良いことであるという意見をいただきました。昨年度の中学校3年生の英語検定受験者数は分かりますか。

■ 教育企画担当課長

受験者数は162名になります。受験比率としては44.6%になります。

■ 市長

受ける方は3級になりますか。4級を受験する生徒もいるのでしょうか。

■ 教育企画担当課長

個人によって変わります。準2級を選ばれる生徒もいます。

■ 市長

本日、フォニックスやプログラミング研修の取組に関する報告がありました。委員の皆様には本件について了承をいただきたいと思います。また、今後、外国の研修生は増える見通しであり、英語を話す人が市内に増えてくると思いますので、英語を活用する場として、どのような機会を創出できるか検討したいと思います。海外研修希望の子どもたちが増えたらうれしいですね。

続いて「(3)ふるさと教育について」に入ります。資料について説明をお願いします。

(学校教育課指導主事説明)

■市長

委員の皆さまからご意見があればお伺いいたします。無ければ続いて、協議事項「(4) 学校適正化について」進めたいと思います。

(教育企画担当課長説明)

■市長

小高区については、4校が再編統合されたことにより、小中学校一貫教育の話も進んでいること、また、原町区・鹿島区についても在校生が少なくなってきたおり、協議を継続している状況は分かりました。時間がかかることだと思いますが、市としては子どもを第一に考えれば、複数のクラスがあった方がよいのではないかと、そのためには将来的に再編も視野にいれる必要もありますがいかがでしょうかと保護者や地域に提案しているとのことでした。このことについてはご意見ありますでしょうか。

■濱須委員

この問題が4年前に、前期4年、後期4年の適正化計画が定められました。小高区においては、東日本大震災が契機となって、ある意味スムーズに話が進んだと思っています。鹿島区においても、真野小学校は鹿島小学校に自然に編入される考えになった経過があると思います。適正化の問題を解決することによって、他の問題の解決につながることは多くあると思います。適正化計画を策定して4年が経過します。この間に問題はある程度具体化されてきたと思います。長く時間をかける話がありましたが、この4年間を、取り組んできた期間と考えてもいいのではないのでしょうか。

■市長

時間は必要だが、適正化の問題解決によってプラスに働く部分が出てくるということでしょうか。

■濱須委員

地域課題や他の課題が内在する内容だと考えており、小高区も同じ問題を乗り越えて次の段階に進んでいます。原町区は複雑なのかもしれませんが、結論に対し、一定の期間を設けて取り組んでほしいと思います。

■市長

他にご意見はありますでしょうか。無ければ、協議事項「(5) その他」に入ります。事務局から何かございますか。

■事務局

ありません。

■市長

本日、協議事項としまして、「学力向上について」「特色ある市の独自教育について」「ふるさと教育について」「学校適正化について」と触れてきました。本会の冒頭で説明しましたが、8月は状況報告及び次年度に向けて何を進めているのか、次回については意見をお聞きしながら、次年度の事業について考えていきたいと思っております。私としては、本日出た学力向上について、子どもにすぐにでもいい影響が出るものに関しては、取り組んでいきたいと考えています。やり過ぎることで学校や子どもの負担になることは避けたいですが、充実させるためにまだ出来ることはあると思っております。この場でなくても構いません。ご提案などがありましたら教育委員会を通していただければと思います。

■教育長

学力向上は喫緊の課題であり、特に算数・数学は長い間解決されておられません。授業の改善は1つ挙げられますし、他に何が出来るのか教育委員会内で検討していきたいと思っております。

■渡辺委員

2つ意見があります。1つは、「4 報告事項(1) これまでの総合教育会議の開催状況等について」にありました、「(1) 学力向上について」の成果・課題等に記載の内容についてです。経験の浅い教員への指導にも当たっており、という表現があります。例えば、20から30代の先生と50代の先生の関わり方には隔たりがあると思っております。若い先生が50代の先生に声をかけられたら躊躇する場面も出てくるのかと思っております。

私が教員になった時最初の赴任先は、山木屋中学校というところでした。在校生は100名にも満たないような場所に位置する学校でした。そこで1つ上の素晴らしい先輩と出会いました。経験は浅いですが、情熱のある授業は、生徒の興味を惹いていました。一方、年配の先生の授業は淡々と進むものであり、生徒は面白くないと感じていたようです。つまり、経験だけではなく、情熱を

もって授業をすることも重要な要素だと思っています。もう1つは、お願いになります。元小高商業高校です。校庭の利用はされていますが、校舎の利用がされていません。ただ老朽化していくのはもったいないと思います。市民の皆様の意見もお聞きしながら、その活用についても検討していただきたいと思います。

■市長

1点目について、30代から40代は中堅に当たる世代だと思いますが、教員数は少ないのでしょうか。情熱のある人というキーワードも出ましたが、改善策等はあるのでしょうか。

■学校教育課長

少ないのが現状です。難しいところではありますが、現在教育委員会で進めようとしている内容について説明いたします。ベテランの先生方の中に指導員というポジションの方がいます。この方は、授業に対する情熱をお持ちであり、秋田の授業を非常に上手に取り入れて実践されています。今年度からモデル授業として公開することにしました。若い先生方に積極的に見てもらい、話し合う機会を多く作ってもらうことが狙いです。このような取り組みを広めていくことで、今までは秋田まで行かなければ見られなかった、素晴らしい授業が近くで見られる環境が作れると思います。2学期から実施できるよう企画しています。若手の先生とベテランの先生の良いところを融合させながら、またお互いに刺激を受けられるようにして授業の質高めていきたいと考えております。

■市長

合わせて回答になるかは分かりませんが、人材確保が出来ない理由に応募が少ないというお話がありました。この背景には給与の水準が低いという理由があるのかもしれませんが。雇用条件について教育委員会と協議していきたいと思います。

■濱須委員

優秀な先生に来ていただくには、いい条件の提示は必要だと思います。

■市長

他の部署では、5年間の雇用を提示することで応募があったなどの例もあります。年数と水準について検討していきましょう。

小高商業高校の件は承知しました。市としても小高区の文教ゾーンは幼・小・中・高、子どもの遊び場が集まっているエリアです。小高商業高校の校舎はいずれ取り壊されることになっており、福島県は、校舎等の利用については示していないため、本市からこのエリアの活用について相談をしたいと思っております。

小高区にはフロンティアパークという産業団地を作る計画をしています。小高区のまちづくり全体を考えれば、仕事、教育、スポーツ、住まいなど、機能をまとめていくことは効果的だと考えております。用地の活用等も検討していきます。

他に、委員の皆様からのご意見等が無ければ、協議事項は全て終了いたしましたので、進行を事務局にお返しします。

■企画課長

長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。

以上をもちまして、令和4年度第1回南相馬市総合教育会議を終了いたします。

なお、次回の総合教育会議については、11月18日（金）に開催を予定しております第8回教育委員会定例会に引き続き、開催予定ですので、どうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

午後 5時00分 閉会